このウキに想いをのせて ～第19回WFGを振り返って～

㈱釣研推薦
野間 辰美

《忘れ物…》

6月1日(土)、夜10時もう少しで長崎県平戸市宮ノ浦港。おやつに玉名のパーキングでうどんを、夜ごはんは平戸で長崎ちゃんぽんを食べてお腹満杯です。車を走らせながら忘れものがないか頭の中でひとつひとつ確認をしていると、『アレッ、もしかして?』、ツケエを忘れた…。しかも前の日一生懸命剥いたエビのムキ身とオキアミのLLサイズのムキ身。オキアミを集魚効果の強い粉でまぶした特製オキアミ、全て自宅の冷蔵庫の中…。嫁さんに電話で確認すると、「あるよ、バカじゃない!」と言われ戦意喪失…。

そして宮ノ浦港到着。今あるツケエは釣具屋さんで購入したマキエのオキアミと、**マルキユーのシャキ生**、そしてエサ盗りが多い時のための少量のボイル。

トホホ…、『仕方ない、これでやらな…』。普段の釣りはこれで充分なのだから、普段通りにやるだけと自分にいい聞かせながらいざ受付へ。

《1回戦》

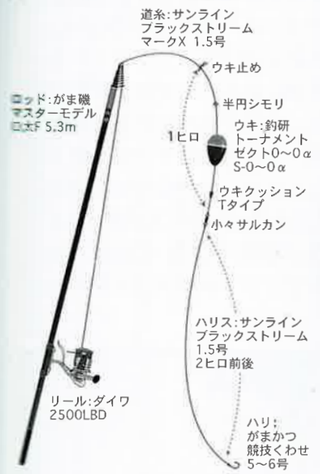
緊張の抽選と受付が終わり、いよいよ一回戦。

初戦の相手は熊本から勝ち上がって来た金子さん。スラリとしたイケメンで去年も参加しているとのこと、かなり手強わそうです。場所は志々伏崎の方から降ろして来て私達が最後の瀬上がり。目の前に尾上島と平瀬が見えているのでおそらくトヤク島の『ナガバエ』辺りだと思います。全体的に浅く、張り出し根がわりと沖まで伸びていてその張り出し根と根の間を釣るような感じです。そして沖は尾上と高島があるので、海峡みたいになっていて本流が走っている感じです。

まず、沖は潮が通しているので攻め辛いです。ポイントとしては足元からの払い出しが止まって、それからゆっくり沖の本流に引かれ始める場所。それが足元から5㍍ぐらいの所だったり、20㍍ぐらいの所に出来たりと、コロコロと変わります。風も強くウネリもあるのでポイントがその都度変化します。

トーナメントゼクトとゼクトSの0～0αを主に使用

【私の使用タックル】

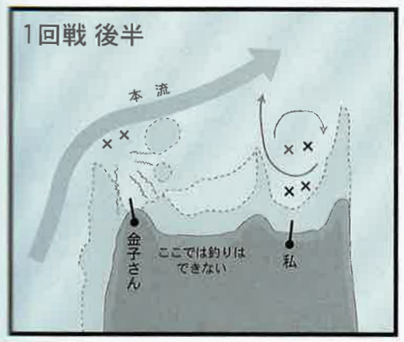


杯ほど足元に入れ、仕掛けは直接潮がヨレている所に投入。そしてマキエを1杯もしくは2杯、ウキの潮上に入れます。この時の仕掛けは道糸、ハリスともに1.5号、ハリはグレバリの6号で、ウキは**トーナメント・ゼクト**の0号。

最初に竿を曲げたのは金子さん。根と根の間を遠投して、多分張り根の先端付近で喰わせている感じ。

そして次も金子さん。2匹釣られて、自分に『落ち着け!』と言い聞かせながら攻めてみますが、コツパグロとアブッテカモ。どうも沖にエサ盗りが行っているようなので、足元のマキエを多めにして本命用のマキエとウキを離してみるとベラの良型。続いてまたベラ。

エサ盗りが変わった。私の今までの経験上、良型のベラが釣れる所は良型のクロが喰って来る事が多いので、諦めずに攻めていると、本当に喰って来ました。でもすぐに根に入ってしまいます。ラインを緩め、少しだけ、ほんの少し穂先が曲がる感じで待っていると…



出て来た! 後はゆっくり竿を起こしてやり取り。

この時、かなりハリスに傷が入っていると思われるので、慌てずゆっくりとやり取りをするようにします。これをきっちり取り込んで2対1で場所交替。

この頃より、本流がまともに金子さんの足元に突っ掛かって高島との海峡に勢いよく流れており釣り辛そうです。

一方私の釣り座は、張り根に挟まれているため影響は受け難いものの、エサ盗りが寄って来ており釣り辛い。そこで、本命用のマキエは一切打たず、マキエは足元のみ。仕掛けは本流に引かれるか引かれないかギリギリの所に入れて止めるか引き戻すぐらいの要領で、エサ盗りの後ろまでゆっくりゆっくり引いて来ます。ストップ&ゴーの反対でストップ&バック。

これで3匹程追加しましたが、規定サイズは1匹のみ。これで2対2。後は重量勝負。重量で何と200㌘差で私の勝ち! 最初の1匹をバラしていたら、また場所交替後のエサ盗りの後ろを釣って1匹追加していなかったらまず私の勝ちはありませんでした。短時間勝負ならではの恐さがあります。

先で用掛り番左流沖て2

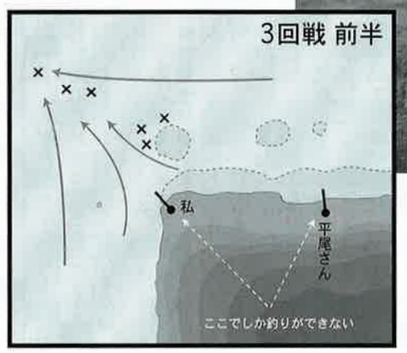
《3回戦》

2回戦は岡山代表の重野さんとだったが、コツパグロに完全に包囲され、何とか2対1の200㌘差で勝ち上がることができました。

そして予選リーグ最終戦。相手は宮崎支部代表の平屋さん。彼も金子さん同様、昨年も参加していており、しかも予選リーグを勝ち上がったとの事で恐い相手です。

場所はイン瀬を抜けて中の島の『はなぐり』だと思います。大きな沈み石が2つボコボコとあってどうも釣り辛い。ただ潮が右から左に流れていて20～30㍍ぐらい先で潮が台流している感じでそこだけ少し波がざわついて見えます。ジャンケンで勝ったので迷わずそこを攻めます。

ウキを流してみると、案の定ここでウキにブレーキが掛かり、ほったらかすと吸い込まれていく感じ。そこで私の取った作戦は、足元よりやや沖にエサ盗り用のマキエを4杯程、本命用をさらに沖に2杯投入。そしてウキはさらに沖、しかも左に流れているので左沖に投入。順番としてエサ盗り用マキエ→仕掛け投入→本命用マキエの順で、20㍍ぐらい先の合流部で仕掛けとマキエを合わすようにライン操作します。また、仕掛け投入時は必ずツケエが潮下、ウキが潮上になるのを確認してから流してやるとトラブルもなく途中でツケエを盗られてもすぐ分かるので、最初の仕掛けの着水時は気を配っておくといいですよ。



準々決勝では接戦を僅差で制した

答えはすぐに出ました。最初の1匹だけ規定未満でしたが、後は全てキープサイズ。そして場所交替後の潮が緩んで止まりかけた時に目の前の沈み瀬の後ろも攻めてみると…居ました! 今回初のキロオーバーのロ太。

これで予選リーグ終了。この3回戦は、何と言ってもジャンケンで勝っていい潮を釣ることが出来たのが勝因でした。

《予選リーグを振り返って》

予選リーグの結果表を見ても分かる通り、どのブロックも接戦。特に7ブロックと11ブロックに於いては1位が3人で総重量勝負までもつれる大接戦。

勝つか負けるかはほんの僅かな差です。この『差』をどうにかしないとトーナメントは勝てないのです。正直私は㈱釣研の推薦が決まってからは、宮ノ浦を想定して似たような感じの場所に行ったり、同じ潮(小潮)の日に釣りに行って、潮の動く時間帯や止まる時間帯のクロの喰い方の違い、エサ盗りの動き等を確認しながらの日々でした。大好きな甑島には行かず、真鯛やイサキも狙わず、ひたすらクロを釣る練習でした。特にウキに関しては、**ゼクト、グラビティー、ジャイロ・N**の3種に絞って、最終

20mほど沖目でマキエと合わせるようにライン操作する野間氏
(予選リーグ3回戦にて)